

## 第1回エネルギー輸送ルートの多様化への対応に関する検討会 議事概要

日時：平成26年4月25日（金）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎3号館11階特別会議室

議事概要：

- (1) 検討会の設置要綱が承認された。
- (2) 事務局から、検討会の設置目的・スケジュール、我が国のエネルギー調達を取り巻く状況、エネルギー調達の取組等について説明を行った。
- (3) 一般財団法人日本エネルギー経済研究所から、我が国の化石燃料調達を取り巻く状況について説明を行った。
- (4) 構成員から主に以下のような発言があった。

### 【シェールガス輸送関係】

- パナマ運河について、通航料の透明化・安定化・低廉化の確保、事前協議の継続、拡張後の運航要件、拡張工事の遅れ等が課題、不確定要素となっており、場合によっては日本のエネルギー価格の上昇や米国からのシェールガス輸入の遅れにつながりかねない。
- 燃料調達先の多様化が重要となる中、シェールガスは新しくかつ現実的な選択肢。
- 米国のシェールガス輸出プロジェクトについて、リボケーションリスク（輸出許可取り消しのリスク）を保険でカバーできるのであれば、事業リスクの軽減につながる。
- パナマ運河の拡張にあわせて新しく開発する船舶について、各港における航行安全の検討に1年～1年半要することがあるため、行政側としては手続きの迅速化を図りたい。
- LNG船の建造のために、今後短期に資金調達する必要性が生じると見込まれるため、円滑な資金供給方法を検討していきたい。
- LNG輸送に係る船員の確保・養成が課題となるため、早急に船員の確保・育成のための環境整備が必要である。
- 貿易収支や経常収支の改善の一助としても、日本で建造するLNG船の輸出促進は重要。
- LNG船は、他の船種に比べて、特にLNG関連機器の国産比率が低く、信頼できる国産品の開発を支援して欲しい。
- LNGの浮体式貯蔵・気化設備(FSRU)は、エネルギービジネスの選択肢が広がることにつながるため、注目していきたい。

#### 【北極海航路関係】

- 船舶の航行自体の安全性に加え、乗組員が病気・ケガをした際の病院への緊急搬送や交代要員の調達に係る問題、船舶の重要機器が故障した際の代替品の調達に係る問題等がある。
- 北極海の安全性確保に向け、避難港の整備、警備・救難体制の近代化・強化が進められている。
- 北極海航路用の船舶には、寒冷地対策のほか、安全性、信頼性、経済性が求められる。
- ヤマル地域は自然環境が厳しく、プラント建設にコストがかかる。日本の国益、日本企業の収益にプラスになるのかという観点が必要。

#### 【液化水素関係】

- 液化水素運搬船の実用化に向けて、ハードに関する取り組みだけでなく、緊急時における航路上での対応や船員教育といったソフトに関する取り組みも行っていただきたい。